

食材のお届けだけじゃない!  
パルシステム東京の  
社会活動をご紹介します。

パルシステムの洗浄剤は全て「合成洗剤」ではなく「石けん」のみを取り扱っています。でも「石けん」と「合成洗剤」ってどこが違うのでしょうか。固体や液体などの形が違うの？呼び方が違うだけ？「石けん」を知ると、パルシステムが「石けんをおすすめする」理由がわかります。

## 大きな違いは原料です♪

カタチは関係ありません

### 石けんの特徴

約5000年前に誕生。天然の動植物の油脂から得られる脂肪酸塩が主成分。石けんの界面活性剤※1は、主に「脂肪酸ナトリウム」と「脂肪酸カリウム」のふたつです。

すすぎにより水で薄まると界面活性作用を失うため、安全性が高い物質です。また、石けんは生分解性がよく、魚や微生物への毒性が少ないため、生態系に対する影響が少なくなっています。

※1 界面活性剤：水と油のような本来なじまない性質のものを混じり合わせる作用を持った物質のこと。多くの洗浄剤はこの作用で汚れを落とします。合成界面活性剤は、石油などを原料にして高圧高温のもとで、化学合成によってつくられます。



### 合成洗剤の特徴

合成洗剤では石油などを使用。複数の界面活性剤を配合した合成界面活性剤です。

有害な化学物質として化学物質排出移動量届出制度（PRTR制度※2）の対象となっている成分や蛍光増白剤（洗濯用）などが含まれていることもあります。

※2 PRTR制度：人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境（大気、水、土壌）へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出し、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。

# なぜパルシステムは「石けん」なの？ 知ってほしい石けんのコト

## パルシステムはなぜ「石けん」なの？

### ●環境問題が深刻化した時代

パルシステムの前身生協の多くが誕生した高度経済成長期は、生活が非常に便利になった一方で、日本各地で「環境問題」が深刻化した時代でもありました。

この時代には今までなかった様々な人工化学物質が生活の中に入ってきました。そのひとつが合成洗剤で、電気洗濯機の普及とともに生産量が急増しました。合成洗剤が普及した当時は浄化槽などが整備されていない地域も多く、合成洗剤を含んだ排水が川へ流れ込んだ結果、川の泡立ちや湖の赤潮発生などの生態系に悪影響を与える現象が各地で発生しました。



©東京都環境局

### ●「粉石けん水ばしろう」の誕生

前身生協の組合員は、従来から生活者の立場から環境問題に取り組み、石けんの利用推進をしていましたが、自分たちが必要とする合成界面活性剤を使用しない石けんを開発し利用したいという熱い想いから、パルシステム初のPB（プライベートブランド）商品「粉石けん水ばしろう」を作りました。

### ●組合員運動

さらに生協で連携し、石けん運動を社会運動として展開。合成洗剤をメーカーに返し企業責任を問う合成洗剤返還運動や署名運動などにも取り組みました。



### ●パルシステムは石けん！！

現在は、市民の環境保護運動の力もあり合成洗剤の改良がすすみ、また国内の下水処理能力も向上したため、河川が泡立つというような極端な環境汚染はみられなくなりました。

しかし、パルシステムでは人の健康や生態系保護の観点から、使われてきた歴史が非常に長い「石けん」のみを取り扱うことにこだわっています。

## 推しがみつかる★ 充実のラインナップ

「石けん」のみを取り扱っているパルシステムでは、PBだけでも21種類のラインナップ。

お肌にやさしいベビー用ソープ・石けん歯みがき・無香料やほのかな香りでリラックスできる石けん、しっかり汚れ落ちする洗浄剤、などなどきっとあなたのお気に入りの石けんも見つかるはず。

人にも環境にもやさしい「石けん」、ぜひお試しください！！



石けんを広める  
マンガを作りました！



パルシステムの石けん使ってみませんか？  
石けんの魅力を漫画で公開中



2022年に、世界中で紛争などにより故郷を追われた難民は1億人を超えました(国連UNHCRのHPより)。その中には、日本に逃れてきた人々もいます。しかし、日本で「難民」と認定されることは非常に難しく、不安定な立場に置かれてしまう人がほとんどです。パルシステム東京では、このような国内の難民を取り巻く現状について、知り、学ぶ取り組みを進めています。



お話をいただいたのは 特定非営利活動法人 難民支援協会 (JAR)

にいじま あやこ  
新島 彩子 氏

年間700人以上、出身国は50か国にわたる難民の方々に支援するJARの支援事業部のマネージャーとして、日々、難民の方一人ひとりに寄り添った支援を行っています。

# 遠い国のハナシ？ 難民は

## そもそも「難民」とは・・・

日本が加入している「難民条約」では、「人種、宗教、国籍、または特定の社会的集団に属していること、政治的意見などを理由に、迫害を受けるおそれのある人々」を指しています。

日本の難民申請者数は、2017年まで年々増加しており、コロナ禍で減少し、2023年に再び急増しました。



## 日本で難民と認定されることは難しい

2022年に申請した人のうち、認定者の割合は2%にとどまっています。これは、同じく難民条約に加入しているほかの国と比較すると著しく低い数字です。その理由として、難民認定を出す機関が外国人の取り締まりをする立場の「出入国在留管理庁」であることが挙げられます。審査が厳しく、難民と認められるべき人が認められていないというケースもあります。その際の異議申し立て先を第三者機関ではなく、同じ「出入国在留管理庁」に行わねばならないという点も問題です。

## 不安定な立場

一度は難民認定が下りなかった方でも、2回目、3回目の申請で認められる場合もあります。難民認定がされなかった方や、申請中の方の中で、生活が困難な方へは1日当たり1,600円的生活費などが公的支援として支給されます。しかし、申請をしてから支給まで半年ほどかかることが多く、この間は就労にも制限があるため、ホームレスになってしまうケースも後を絶ちません。



難民の方は迫害の恐れがあるため、このような厳しい状況にもかかわらず、母国に帰るといった選択肢がありません。迫害から逃れて日本へきたはずなのに、再び苦しい立場におかれてしまうのです。難民支援協会では、日本に逃れてきた難民への生活、就労、法律面での支援の他、国内難民についての学習会や政府への提言活動を行っています。事務所には日々30～50人の助けをを求める人々が訪れ、「今日泊まる場所がない」という相談も珍しいことではありません。



パルシステム東京で開催した  
国内難民についての学習会  
(2024年3月9日)



## 日本で難民認定を受けた 当事者の方のお話

難民認定が下りるまで6年以上がかかりましたが、その間も含めて、日本の方には親切にいただき、感謝の言葉しかありません。

母国ではコミュニティ間で差別や対立があり、村を軍隊に焼き討ちにされることさえあります。立場の弱い人々の権利向上を訴えていた私の家族は逮捕され、死亡。私自身も暴力にさらされました。日本で難民認定がされましたが、兄弟とは離れ離れで、このまま一生会えないかもしれません。

日本は安全な国ですが、世界ではこれが当たり前ではないのです。



## おし に い じ ま 教 え て 新 島 さ ん !

### 難民の人たちはどうして日本に来たの？

難民の方には一人ひとり違う背景があるのだけど、理不尽な逮捕や、命の危険のため、とにかく早く出国の必要があったから、一番初めにビザが下りた日本に来た、という人や、家族や知人が日本にいるから、という人もいます。

### 移民と難民はどう違うの？

移民の人たちは、何かあればもともといた母国に帰ることができますが、難民の人たちは、母国に帰ると迫害されてしまうため、逃げた先の国で何があっても、「帰る」という選択肢がありません。

### ぼくたちにできることはあるの？

難民支援協会では、募金や物品、食品での様々な寄付を受け付けていたり、難民についての学習会「難民アシスタント養成講座」などを開催しています。5月18日～26日(会場参加:5/26(日))には、ウォーキングやランニングが支援につながるチャリティラン&ウォーク企画「DAN DAN RUN」を開催します。お子様も参加できるミニマラソンもありますよ。詳しくはホームページをご覧ください。



詳しくは  
いじまあやこ

